

2025年度 出題内容の分析と出題の意図

政治・経済、公共

※2026年度入試より「政治・経済」に変更

一般選抜 前期日程

●出題内容

試験時間	70分
出題形式	法律分野1問、政治分野1問、経済分野1問および現代社会の諸課題に関する問題の大問4つの組み合わせである。このうち、現代社会の諸課題に関する問題については法律、政治、経済の各分野を横断的に扱うことがある。 それぞれの大問では文章が提示され、空欄補充や適文選択が出題される。
解答形式	マークセンス方式
難易度	いずれの試験日においても、基本的に教科書に記載されている事項で出題されており標準的な難易度である。
問題の内容（構成）	〔Ⅰ〕法と裁判 〔Ⅱ〕選挙制度と国民の政治参加 〔Ⅲ〕日本の経済政策 〔Ⅳ〕貧困問題

●出題の意図

基本的には教科書や資料集、用語集に記載されている範囲からの出題であり、「政治・経済」（および「公共」）に関する基礎的な知識の修得度を問うている。もっとも、現代社会は国内外ともに日々絶え間なく変化しており、それに伴って新たな社会的課題も生じている。そうした教科書に記載されていないような新たな事象についてもきちんとフォローできているか、そして「政治・経済」の基礎的な知識を用いて考察することができるかどうかという点についてもみることにしている。

●受験生へのアドバイス

まずは教科書や資料集、用語集の基本的な内容を理解することが大切である。ただし、単に用語を暗記することに終始するのではなく、その用語が使われている文脈や背景などについてもあわせて学習することを心がけてほしい。

また、社会の最新の動向を知るためには日頃から新聞やテレビのニュースなどに接しておくことをおすすめする。その際、不明な点があれば教科書や用語集にあたって調べることで教科書の内容と新たな社会的事象とが有機的につながり、いずれの理解もより深まることになる。さらに、統計資料などについても、教科書や資料集に記載されていない最新のデータが用いられることがある。そうした最新のデータについても把握しておくことが肝要である。